

---

演題名

胸膜中皮腫に対するイピリムマブ+ニボルマブ併用療法後のプラチナ+ペメトレキセドの有効性

演者氏名 河村直樹

所属先 兵庫医科大学 医学部 呼吸器・血液内科学

---

・筆頭著者・共著者の氏名

河村 直樹 1), 三上 浩司 1,2), 高橋 良 1,2), 金村 大地 1), 田上 健太 1), 前迫 哲史 1), 太田 博章 1), 長谷川 裕 1), 村田 卓嗣 1), 脇田 悠 1), 神取 恭史 1), 近藤 孝憲 1), 村上 美沙 1), 清田 穰太郎 1), 徳田 麻祐子 1), 東山 友樹 1,2), 多田 陽郎 1,2), 柊木 芳樹 1,2), 大搦 泰一郎 1,2), 米田 和恵 2), 藤本 大智 1,2), 南 俊行 1,2), 栗林 康造 1,2), 木島 貴志 1,2)

・全著者の所属施設を記載

- 1) 兵庫医科大学 医学部 呼吸器・血液内科学
- 2) 兵庫医科大学 医学部 胸部腫瘍学特定講座

・抄録本文

【背景】

Checkmate743 試験の結果により、日本では、2021 年 6 月にイピリムマブ+ニボルマブ (Ipi+Nivo)併用療法が胸膜中皮腫(PM)の初回治療として保険適応となり、プラチナ+ペメトレキセド(PEM)は 2 次治療で使用される場合が多くなっている。しかし、その有効性と安全性はコンセンサスを得られていない。

【方法】

2021 年 6 月から 2025 年 3 月までに、兵庫医科大学病院にて PM に対し Ipi+Nivo 初回治療後の、2 次治療としてのプラチナ+PEM の有効性と安全性について検討した。

【結果】

Ipi+Nivo 初回治療を行った 102 例中、解析時点で病状進行を認めた症例は 61 例、そのうち、2 次治療でプラチナ+PEM に移行できた症例は 39 例であった。患者背景は、年齢中央値が 71 歳(42-85)、性別は男性/女性：28/11、診断時臨床病期はⅠ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/再発：19/0/6/5/9、組織型は上皮様/二相性/肉腫様 31/1/7、プラチナは CDDP+PEM/CBDCA+PEM：17/22 であった。効果は、奏効率 15.4%、病勢制御率 84.6%、mPFS4.4 ヶ月、1 年生存率は 78.8%であった。

【結論】

Ipi+Nivo 後の 2 次治療としてのプラチナ+PEM 併用療法の有効性が示された。